「みんなで読もう、会員発の国際論文！」の運用に関する覚書

日本小児がん看護学会　国際交流委員会

（1）　事業概要

日本小児がん看護学会国際交流委員会では,「学会員が海外の最新の小児がん看護に興味・関心を持ち、新しい知識・技術を得る機会を増やすことによって, 小児がんのこどもと家族へのケアの質向上に寄与する」ことをミッションに活動している。本事業では, 国際誌に論文が掲載された学会員が, 論文の知見や投稿過程での経験を会員と共有し, 会員の国際論文に対する興味・関心を高めること, そして新しい知識・技術を得る機会となることを目指す。

（2）　「みんなで読もう、会員発の国際論文！」の申し込み要件

- 日本小児がん看護学会会員であること（当該年度の年会費納入を済ませている）
- 申し込み内容の論文は自身が著者となっている論文であること（筆頭・共著等は問いませんが、筆頭著者および責任著者の承諾を得てください）
- 出版後（Epub ahead of print でも可能）、おおよそ5年以内であること
- 論文の内容が小児がんの子どもと家族へのケアの質向上に寄与するものであること（小児がんのみをターゲットとしていなくても構わない）

※　申し込み受付の際に、事業の趣旨と合うか、倫理的配慮が十分なされているか、査読プロセスの質が十分保証されている雑誌であるか等について、国際交流委員会で確認し、受付しない場合がある。

（3）　申し込み者にて作成するファイル

以下の内容を参考に申し込み者がパワーポイントで数枚から 10 枚程度で自由に作成し、PDF にて提出する。スライドデザインは自由（ひな形のデザインの使用も可）。

①　研究者紹介

・ご所属等、自身について紹介する

②　国際誌投稿への Tips

・リジェクトされたジャーナルや査読期間などの裏話（可能な範囲で）

・苦労話や研究に込めた思い, 願い, これからの展望, 研究結果の解釈など

③　論文概要（表紙）

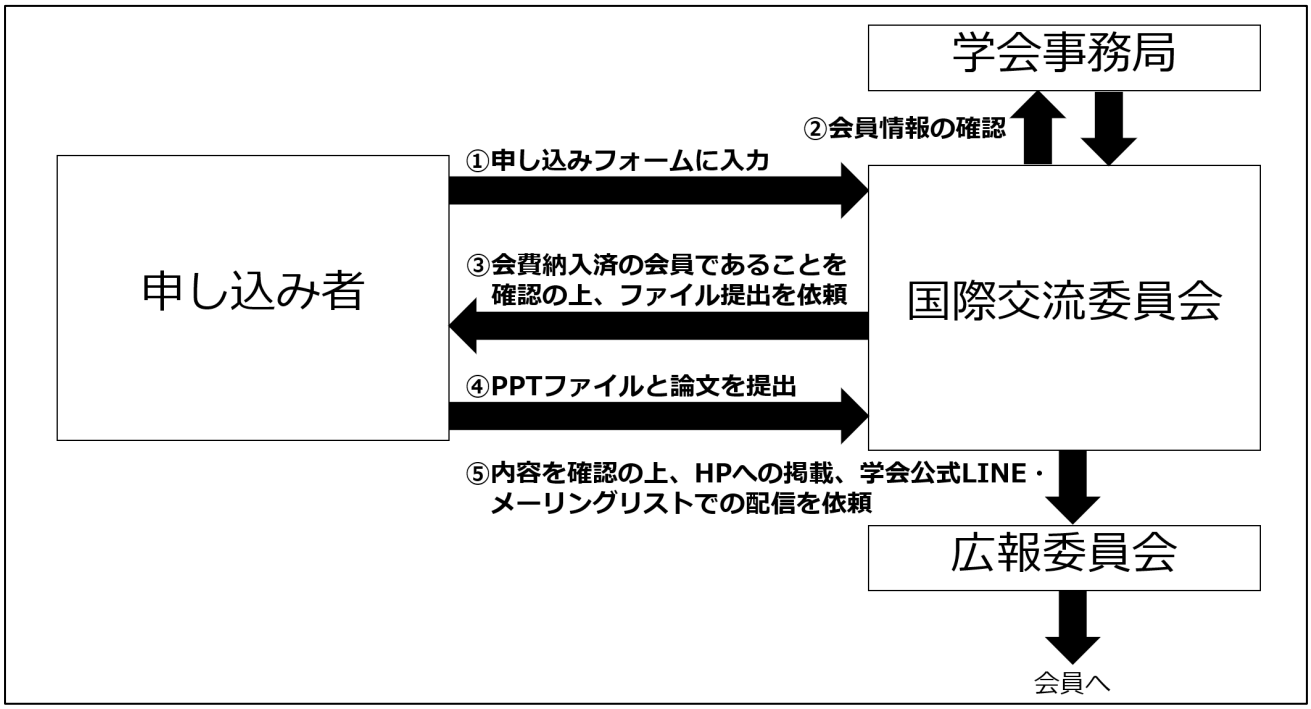
・タイトル, 著者, ジャーナル名など

④　研究の概要

・抄録や結果（グラフなど入れて自由に作成）

※ひな形のデザインはこちらよりダウンロード可能です。

（4）　周知までのフロー



① 申し込み者は小児がん看護学会ホームページ上のリンク等から、申し込みフォームに入力する。
② 国際交流委員会は、申し込み者の会員情報（会員かどうか、会費納入状況）を学会事務局に確認する。
③ 国際交流委員会は、申込者が会員であり、会費納入済みであることを確認の上で受付し、ファイルの提出先への資料の提出を依頼する。
④ 申し込み者は論文内容をまとめた PPT および元となった国際誌掲載論文を提出する。
⑤ 国際交流委員会は提出された資料を確認する（必要時修正を依頼）。内容に問題がなければ、各スライド内に事業タイトルと通し番号を挿入のうえ、広報委員会にホームページの掲載を依頼する。

※事業概要や申し込みフォーム、パワーポイントスライド原本をホームページ上に掲載する等して、会員への事業の周知を図る。

（5）　周知資料のイメージ

①研究者紹介

東京医療保健大学　医療保健学部看護学科
岡田　弘美

小児専門病院で勤務した後、大学院に進学しました。博士前期課程より小児がんのお子さんをもつ母親の就労をテーマに研究に取り組んでいます。今回、ご紹介する論文は、博士後期課程で取り組んだ研究のデータの一部をまとめ、博士論文の基礎論文「小児がん経験者の母親の就労状況に関連する要因：横断的研究」として発表した論文です。

②国際誌投稿へのTips

国際誌への投稿は、本論文が3本目でした。これまでの２本は看護系の国際誌に受理されました。本論文は、研究テーマから看護師だけでなく、小児がんのお子様とご家族を支援する他の専門職にも読んでいただきたいと考えました。そこで、がん医療に携わる様々な職種が読者として想定される雑誌への投稿に挑戦しました。

しかし、残念ながら、受理されるまでに投稿した他２誌では査読にも進めずに、敢えなく撃沈しました。国際誌に投稿するモチベーションの維持、そして、他の雑誌への投稿に向けて論文の形式修正が大変でした。予め、投稿先の候補を複数（できれば３～４つ）挙げ、投稿順を考えておくと良いかもしれません。

③論文概要（表紙）

Title:
Factors associated with employment status among mothers of survivors of childhood cancer: a cross-sectional study
小児がん経験者の母親の就労状況に関連する要因：横断的研究

Author:
Hiromi Okada, Wataru Irie, Akiko Sugahara, Yuko Nagoya, Masayo Saito, Yoji Sasahara, Yasuko Yoshimoto, Fuminori Iwasaki, Masami Inoue, Maho Sato, Miwa Ozawa, Shigenori Kusuki, Junji Kamizono, Yasushi Ishida, Ryoko Suzuki, Ryoko Nakajima-Yamaguchi, Hitoshi Shiwaku.
岡田弘美、入江亘、菅原明子、名古屋祐子、齋藤雅世、笹原洋二、吉本康子、岩﨑史記、井上雅美、佐藤真穂、小澤美和、楠木重範、神薗淳司、石田也寸志、鈴木涼子、山口玲子、塩飽仁

Journal:
Supportive Care in Cancer 2023; 31:168

④研究の概要

目的：小児がん経験者（CCS)の母親の就労状況に関連する要因を明らかにすること

方法：
1) 対象者：小児がんの治療及び経過観察をおこなっている11施設の外来を受診した小児がん経験者の母親
2) 調査方法：質問紙調査
3) 調査内容：母親の就労状況、小児がん経験者の外来通院の頻度と母親の付き添いの有無、小児がん経験者の医療的ケアの有無就労、就労意欲、子どもの慢性疾患に対する親の適応度 Parent Experience of Child Illness（PECI）、母親が認識するサポート、小児がん経験者を対象とした経済的支援の有無
4) 分析方法：就労している母親群と就労していない母親群の２群に分け、各質問項目に対しMann-WhitneyのU検定、χ2検定、Fisherの正確確率検定を実施し比較した。母親の現在の就労の有無に対する関連因子を検討するため、二項ロジスティック回帰分析を行った。

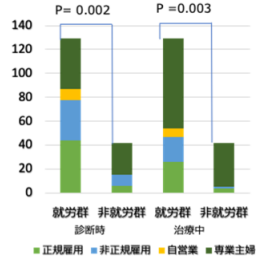
④研究の概要

結果：
母親 171 名のうち、129 名 (75.4%) が雇用されていた。調査時に最も多い雇用形態はパートタイム、派遣を含む非正規雇用（n= 83、48.5%）であった。

診断時の就労状況別就労の変化　n=171

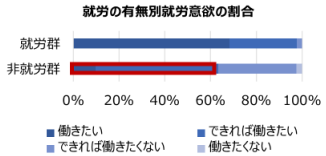
	正規雇用 n＝50 n(%)	非正規雇用 n=43 n(%)	自営業 n=9 n(%)	専業主婦 n=69 n(%)
休職した	20(40.0)	8(18.6)	4(44.5)	0(0.0)
退職した	18(36.0)	25(58.1)	2(22.2)	0(0.0)
時間や働き方を変えて同じ仕事を続けた	9(18.0)	5(11.6)	2(22.2)	0(0.0)
就労状況の変化はなかった	3(6.0)	5(11.6)	1(11.1)	68(98.6)
働き始めた	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.4)

調査時の就労の有無別診断時、治療中の就労状況



④研究の概要

結果：



小児がん経験者の母親の就労の有無への関連要因に関する二項ロジスティック回帰分析

項目	偏回帰係数	有意確率	オッズ比	95%信頼区間 下限	95%信頼区間 上限
就労意欲	2.305	<0.001	10.023	4.167	24.105
治療中の就労の有無	1.748	0.007	5.475	1.606	20.553
通院頻度	1.020	0.002	2.774	1.472	5.227
サポート数	0.473	0.002	1.605	1.195	2.155

モデルχ2検定：p<0.001，判別的中率: 84.8%, Hosmer-Lemeshowの検定: 有意確率 0.538

考察：
CCS の母親の雇用は、働く意欲や長期的な不安などの心理的要因と関連しているため、CCS の母親に対する心理的サポートは雇用を促進する可能性がある。また、治療中の雇用継続はがん治療終了後の母親の雇用に影響を及ぼすため、小児がんの治療期間をカバーする休暇制度の創設も必要である。

覚書作成日　2025 年 1 月 10 日